

今回のミニバレー上達法レシーブ編は、地味ではありますが、ヨミと堅実なレシーブで活躍する年齢不詳。パンゲアの森永選手に登場していただきます。

SSK「長島、王がひまわりなら、俺は野に咲く月見草と野村元監督が言っていました。私は、NOELの山下と森永のレシーブを観ている、まさに同様の感じを抱きますね！両者共に、試合勘、レシーブは素晴らしいものがあります。つまり、ひまわりのなのは山下。月見草のなのは森永だと思えます。

どちらが優れているという問題でなくあくまでも見た感じですよ。今回は、



人生を極めた哲学者ともいえる森永選手にレシーブの上達法を聞いたところ、原稿用紙に二枚書いてくれましたので、そのまま引

用いたします。(几帳面な人です)」

「何年もミニバレーをやっている人たちは、普通のことだと思えますが、清田会長よりレポート提出を命じられたので理想として書くことを書かせて頂きます。サーブカット。セッターがトスを上げやすい所に返す。

アタッカーが欲しいトスを一番上げやすい場所をチームで話し合っ理解しておく。そこに大きいトスなら上から落ちてくるカットを、短いトスなら早いパスを返す。

アタックのレシーブは、パンゲアは殆どブロックしてくれる大久保がいまから、私の仕事はブロックの後の返しが主です。先ず方向はアタッカーのコースとブロックの位置の延長線上で、距離は練習や試合で覚えておく。

あまり知らないチームでは一本目で見当をつけて二本目で修正する。そこで待っていると結構飛んできます。又、相手のアタッカーが全力で打てないときのボールの処理の癖を頭に入れて、チャンスボールを点に出来るようにする。こちらのアタッカーが二枚共打てるように声をかけて拾いに行きます。

後は気合と度胸です。遠くからの返球も怖がらずに、アタッカーに打ってくれ！と思って飛ばすとネットに寄っていきま。年とともに悪くなる身体の動きを気持ちよきやと思つてでなんとか補つていかなきゃと思つています。しかし、理想と現実はいっも一致してはくれません。同じような

反省を何度もします。

周りにいる上手な人を見て学ばせてもらっています。森永順子」

ただ単にコートに入っているだけでなく、考えたプレーを心掛けています。うですネ！

「プロッカーへの信頼」「アタッカー



が二枚共打てるように「チームの連携」とは、お互いの信頼の上に構築されたチームワークこそ最も大事。ということですね。SSK「だから、万年2位だけど、抜群の安定感を誇っているのですヨ。」会長「私の生きていくうちにステージ制覇してもらいたいものです！」大久保「.....」

三吉「俺はアタッカーだけん、レシーブのおつあーは分からん。上がったトスを決めりやーヨカこつたい！」永松「アホか！お前がそんなことだからシャーマン同様パチンコも勝てないんだよ！」三吉「フン！どうせアホですよ！アホの坂田ですよっ！」

どうでもいいですが付録です！



私が、アホの坂田三吉です！
取り柄は186センチの身長！
野球出身です。長身からの軟投型ピッチャーで、よく打たれました。今は尊敬するSSKのようにミニバレープロを目指しています！ヨロシク！

三吉です。

SSK「審判講習会でもしやべつてばかりで、講師の話聞いていないから大まかなルールしか把握していない。彼の辞書には集中という言葉は、ありません。でも、最近練習の成果で、アタックに関してのみ、かなり上達してきました。今では、その破壊力はトックラスでしょう！
フォームに関しては、あまり皆さんにお勧めできませんが、長身を生かした豪快なアタックは必見です。今後の活躍を期待します。」